

9条の尊さ

宝塚市 船越梨乃

今、日本で憲法の9条が変えられようとしていると知った時、私は本当に何ともいえない気持ちになった。二度と戦争をしないと誓ったあの日は、一体何だったのだろうか。第2次世界大戦で、分かったはずだと思っていたのに……。

戦争を体験していない私が言うのもアレだが、死の怖さは知っているつもりだ。

私は4歳の時、体の約30%に火傷を負った。両親は、死ぬかもしれない、と医者に言われた。そんな死にかけたことがあってか、私は『死』というのに敏感になった。

死の恐怖というのは、言葉では表せないが本当に怖い。私は、2回目の手術で手術室に入り、親の顔が去っていった時、泣いた。その当時私は6歳だったが、やはりそんな小さい時でも死を怖いと感じた。もう二度と親の顔を見ることができないんじゃないかと思うと、自然に涙が出てきた。麻酔が効いてきて目が閉じそうになっても、閉じることを怖れた。私はこの時のことを、今でも覚えている。

6歳でこれだけ死を怖がったのに、人間の中に死を怖れない人なんているのだろうか。誰だって死ぬのは嫌だと思っているだろう。なのに、日本はまた同じ過ちをくり返すのだろうか。戦争なんてやりたくないのに、勝手に巻き込まれて死んでいくなんて、私は絶対嫌だ。そんな死に方をするために生まれてきたのではない。

それに私は、この憲法の9条が日本だけのものではないと思っている。

第2次世界大戦中、日本はたくさんの国を攻め、侵略してきた。その国の人達には、不安があると思う。また攻められるんじゃないか、と思うのは普通だと思う。でも、憲法の9条があることによって、日本は攻めてこないという安心感があると私は思う。

日本はこの先、目覚ましい発展はしないだろう。資源がたくさんあるわけでもなく、特別な何かがあるというわけでもないからだ。しかし、私が怖れているのはそんなことではない。その後、

「じゃあ他の国から奪おう。」

と言って、戦争が始まるのが嫌なのだ。

この憲法改正は、もはや日本だけの問題ではなく、世界の問題だと私は思っている。憲法の9条は、本当に守らなくてはならない財産だと思う。